

## 第3号議案

### 2024(令和6)年度 事業計画及び予算

#### 1. 2024 年度 事業

ならびに活動計画

#### 2. 2024 年度 事業予算

## 1. 2024 年度 事業ならびに活動計画

## 2024 年度事業ならびに活動計画

特定非営利活動法人 安全工学会

\*\*\*\*\*

### 定款第 3 条（目的）

この法人は、主として産業に関する安全の諸問題を広く工学的に調査・研究し、各種災害の防止のための知識・技術の向上及び普及を図り、もって産業及び學術の発展並びに社会の安全安心の獲得に貢献することを目的とする。

\*\*\*\*\*

### 1. 事業活動方針

2023 年にコロナウィルス感染症は 5 類感染症に移行し（インフルエンザ並）、2024 年 3 月で医療費などの支援（公費負担など）も終了し、従来の通常の医療提供体制に戻り、いよいよ終息を向かえようとしている。

2024 年度は、従来の学会活動を回復し、更に、新たに発足した運営会議、国際交流 WG、広報 WG（2022 発足／理事会直下の組織）を駆使して、更なる学会活動の具体化、実現、発展を図る。併せて来る 70 周年（2027 年）を控え（後半の 7 年目に突入）、継続した学会構想の練り直し及び検討作業に向け、仕組み創りを進めてゆく。

「具体化」「実現」「発展」の具体的な方法・形態の一つとして、「研究会」活動が挙げられ、この活性化を更に支援し支えてゆく。

医療安全研究会は 2005 年 6 月 11 日（土）に第 1 回が開催され、最近では 1 回／2 ヶ月のペースで開催されている。医療現場のインシデントに焦点を当て、詳細な FTA 解析を実施し、更に STAMP/STPA 解析、S-A プロセスチャートなど新しい解析技術を併せ、検討を進めている。

産業防災研究会は、2023 年度開催した 4 回の懇話会から新たな展開に進む方向を模索する。懇話会を通じて集まった新たなメンバーを加え、これまでの「NATECH 安全管理フレーム」の構築作業に加え、「NATECH に関する設備設計上の基準」、「行政・住民との平時／自然災害時のコミュニケーション」などへ、勉強会や懇話会を通じて間口を広げてゆく。

静電気災害防止研究会は、2023 年 3 月 3 日（金）に第 1 回を開催しこれまでに 3 回の講演会を通じて情報を発信し、質疑やアンケートなどを通じて参加者から情報を収集してきた。今年度もこのような活動を続け、個別な案件への対応などから、学会としての新たな情報発信活動へ展開してゆく。

地域活性研究会は、「地域活性の一つの大きな柱になるのは安全（工業振興、農業振興、観光振興）」、また「安全から様々な振興策を模索する試みが生まれないか」といった視点から発足した。コロナウィルス感染症の影響もあったが、本格的な活動を開始することが 2024 年度の目標となる（7th GSPS は観光庁の「ポストコロナにおける国際会議誘致競争力向上実証事業」の対象として実施することで地域活性化に寄与できた面があった等に留まる）。

学会内（学会員各位）に在る、又は生まれようとしている新たな研究会の種を見出し育て発芽を促してゆくとともに、学会の将来構想から生まれる研究会の育成を図ってゆく。

他の一つの方法・形態として「安全工学誌」や他の出版物による情報発信や、学会のホームページを介しての情報発信がある。広く世界に情報を発信する視点から、安全工学誌への英文での投稿・寄稿を奨励し、J-STAGE での即時公開部分を増やし、ホームページや刊行物の紙面などの改善に努め、学会内外への発信力を上げてゆく（ホームページの CMS

のサポート終了予告に対する移行先検討など再構築なども)。加えてプレスリリースなどの機会を活かして、学会のプレゼンスの更なる向上を目指す(広報WG)。

これまでの3年間にわたるコロナウィルス感染症拡大の間に、WEB会議・講演会の有効性が認識され(参加者の拘束時間の短縮、出張経費の削減など)新たな情報交換手段として実効を重ねている。さらに待望される現地対面開催とWEB会議の、ハイブリッド開催が注目されている。一方、大規模なハイブリッド開催では、それぞれ異なる会議場の設備機器とWeb環境との調整に、場合によっては多大な技能と機材・費用が掛かることが明らかとなってきた(7th GSPS 他)。

2024年度は、現地対面の従来の姿を取り戻し(地域セミナー・安全管理の最新動向講習会・災害事例研究会等の再開)、更にWEBやハイブリッド開催の有効性を活かした開催形態を模索しながら事業を進めてゆく。

また2018年6月に安全工学会から分離独立した保安力向上センターとの連携協力について、今後も引き続き、実質的且つ具体的な相乗効果を目指して活動を推進してゆく。

併せて周辺学協会との連携に努め、講演会、セミナー、講習会などの集客増を図り、会議やセミナーの開催についても連携を継続して強化してゆく。学会の将来構想に基づいた戦略的な連携を引き続き模索する。

安全工学会誌の論文などの発表は、会員の研究成果の発表の場として、また学会からの知識・情報の発信の場として重要な役割を果たしている。2024年度も研究会などの成果を積極的に発信する。また安全工学誌は「安全工学」を軸に非常に幅広い分野の論文を受け入れており、この点は世界的にも稀有な存在でありこの特徴を大切に育てる(J-STAGEの活用や英文原稿の奨励など)。

2023年度は、APSSの開催、CCPSとの7th GSPSの開催、韓国安全学会(KOSOS)との協力関係の樹立(MOUの締結及び相互訪問による交流促進など)など、国際交流に努めた。2024年度も継続して国際交流に努めてゆく(国際交流WG)。

## 2. 事業内容 特定非営利活動に係る事業

### 2. 1 安全工学に関する研究・教育事業

#### ① 安全工学に関する研究

学術委員会を中心に安全工学及び安全工学教育に関し検討を進め、普及、啓発活動に注力する。研究会活動の活性化(医療安全研究会、産業防災研究会、静電気災害防止研究会、地域活性研究会など)、再構築に努力する(特に学術委員会から産み出す研究会活動(Bottom up)の模索に注力する)。

#### ② 安全工学シンポジウム 2024「技術・社会の変化と安全工学のパラダイムシフト」

安全工学を軸とした、横断的な研究発表会への参加。

開催月日：2024年6月26日(水)～6月28日(金)

開催場所：日本学術会議

参加予定者：550名

主催：日本学術会議

幹事学会：特定非営利活動法人 安全工学会

共催：安全工学会ほか30学協会(予定)

#### ③ 安全工学研究発表会(第57回)

安全工学会の研究成果の発表会を開催する。同時に安全工学に係る情報交流の場、学術及び技術の切磋琢磨の場を、産官学また学界や各協会を横串として

貫く形で提供する。

開催月日：2024年12月5日（木）～12月6日（金）

開催場所：富山国際会議場（富山県富山市）

参加予定者：150名

④ 2024 プロセス安全シンポジウム（2024 PSS）

今年は第57回安全工学研究発表会と別途開催を試みる。

開催月日：（未定）

開催場所：同上

参加予定者：200名

⑥ 研究・教育事業管理

対象委員会・研究会

学術委員会 3-4回

安全工学研究発表実行委員会 1-2回

医療安全研究会 6回

産業防災研究会 4-6回（必要に応じ短時間、複数回も）

静電気災害防止研究会 1-2回

地域活性研究会 1-2回

新規研究会の立ち上げ 随時

## 2. 2 安全工学に関する普及啓発事業

### 2.2.1 一般普及事業

#### (1) 会誌“安全工学”

①発行 印刷物の発行 年6回／480ページ前後

#### ②電子化推進

J-stageの公開 2016年6月発行分～実施済み、逐次更新

J-stage公開の推進（2023年Vol.62, No.4より、論文・技術ノート of の即時公開化）

#### ③英文誌の検討

当面は現行の枠で英文原稿の増加（英文原稿の提出を奨励する）に尽力する。

#### (2) 講習会・セミナー

##### ①第46回安全工学セミナー

物質危険性講座 2024年08月～09月で調整中

危険現象講座 2024年10月で調整中

プラント安全講座 2024年11月で調整中

安全マネジメント講座 2025年01月下旬で調整中

実施予定場所 ハイブリッド開催なども含め柔軟に検討する

参加募集人員 各回100人以内（予定）

##### ②第21、22回安全工学地域セミナー

開催月日 2024年6月7日

実施予定場所 海上災害防止センター（横須賀、第二海堡）

参加募集人員 40人

及び2024年秋頃に22回目を予定

##### ③第34回安全管理の最新動向講習会

開催月日 2024年～10月で検討中  
実施予定場所 コロナ禍を睨みハイブリッド開催なども柔軟に検討する  
参加募集人員 100人以内

④第22回安全工学実験講座

開催月日 2024年7月18日(木)～19日(金)  
実施予定場所 日本カーリット(株)  
参加募集人員 20人

⑤災害事例研究会

開催月日 2024年、検討中  
実施予定場所 検討中  
参加予定人員 各回100人以内

⑥地域・企業支援セミナー

日本全国の地域・企業への講師の派遣 2～4件程度

⑦安全教育セミナー

安全教育担当向けセミナーの継続開催の推進

開催月日：2025年2月18日(WEB)、28日(現地)

実施予定場所 三井化学株式会社(茂原分工場)技術研修センター

参加募集人員 16人

⑧普及啓発事業管理

・対象委員会・研究会等

編集委員会 12回

普及委員会 4回

・会誌への広告募集管理 逐次

(3) 図書販売・会誌の年間購読販売

法人事務所にて図書販売等を実施する。安全工学便覧第4版の販促(継続)。

2.2.2 普及啓発事業：受託事業

経済産業省の新規事業に注目し、受託事業管理委員会管理下、対応可否を検討する(適宜)。

2.3 安全工学に関する調査及び情報収集提供事業

ホームページを充実させ、会員への情報提供を推進する他、意見交換システムの検討を行う。また、非会員へのPRを推進する(継続)。

2.4 安全工学研究の奨励及び研究活動等の表彰

学会賞授与：

安全工学に貢献した学術業績、優秀論文、功労者を表彰する。玉置功労賞・北川学術賞、学術技術功労賞について、学会員に推薦を応募する方法を採用した。2024年度も継続して実施してゆく。

対象：安全工学論文賞(2件以内)、玉置功労賞(2名以内)、北川学術賞(2名以内)、優秀・学生講演賞(2名以内/研究発表会で決定・表彰)、学術技術奨励賞(2名以内)。

2.5 安全工学に関連する国内外の団体との連携及び協力

安全工学に関連する学協会に加入し、情報を得ると共に安全工学の発展のために協業

を模索する。国際的には、APASES (Asia Pacific Association of Safety Engineering Societies, アジア太平洋安全工学学協会連合) に参加 (継続)、APSS、CCPS、ICSI、韓国安全学会 (KOSOS) などとの情報交換を継続、発展させる (継続)。

①諸会費

日本工学会、高圧ガス保安協会、防災学術連携体などに会員として加入 (継続)

②安全工学シンポジウム 2024 他

③防災学術連携体、日本化学連合(オブザーバー)への参加を継続し、接点を模索する。

④化学工学会、石油化学工業会、日本化学工業協会、化成品工業会、(独)情報処理推進機構などの周辺学協会との連携を深める。

## 2. 6 管理業務

①総会 1回開催

開催月日：2025年5月

開催場所：検討中

②理事会 4回開催

開催月日：2024年5月、7月、11月、2025年3月 (調整中)

③評議員会 1回開催

開催月日：調整中

④監事会 1回開催

開催月日：2025年4月

⑤委員会

総務委員会 必要に応じて開催

企画委員会 4回開催

アドバイザリーボード 1回開催 (再構築中)

⑥現場研修会 2回開催

開催日：2024年4～9月、2025年3月予定

見学先：調整中

参加予定人員：安全工学会の会員 各回20～30名

その他未定

以上